

全国物理
コンテスト **物理チャレンジと**
国際物理オリンピック

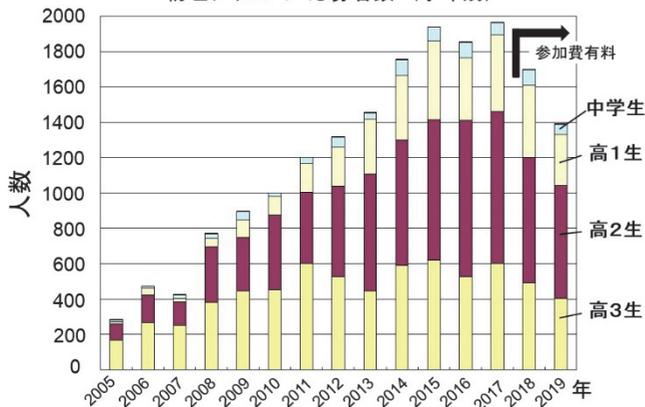


**国際物理オリンピック
2022年日本開催!**



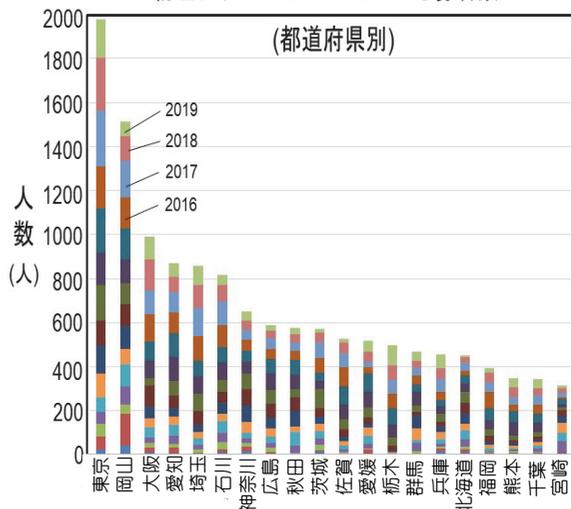
特定非営利活動法人 **物理オリンピック日本委員会**
NPO The Committee of Japan Physics Olympiad (JPhO)

物理チャレンジ 応募者数 (学年別)



物理チャレンジは、2005年の世界物理年を機に始められました。それ以後、毎年、翌年の国際物理オリンピックでの日本代表選手候補者の選考会も兼ねています。高校3年生は物理オリンピック代表選手候補者にはなれませんが物理チャレンジには参加できます。高校生にまじって中学生や小学生までチャレンジしています。

物理チャレンジ2005~2019 応募者数

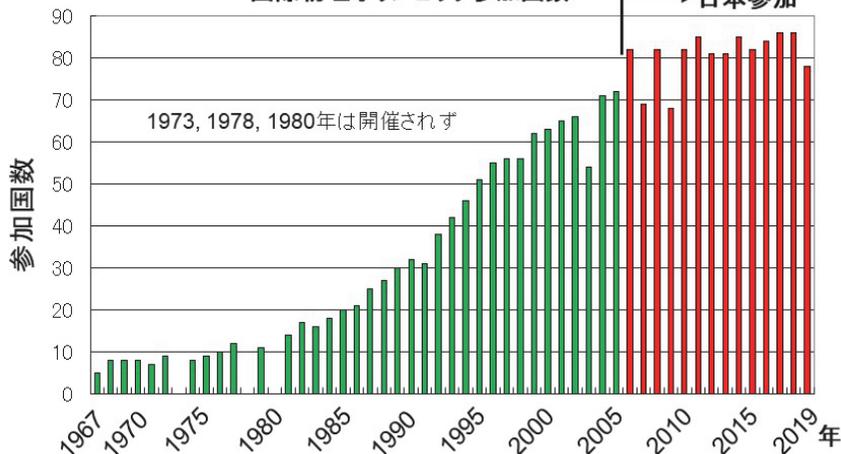


回を追うごとに、応募者は全国各地から集まっています。現在までの参加者総数は1万3千人を超えています。

国際物理オリンピック

International Physics Olympiad

国際物理オリンピック参加国数



国際物理オリンピックは、おもに高校生のための国際的なコンテストです。1967年にポーランドで第1回大会が開催され、それ以後ほぼ毎年開催されています。各国で選抜された最大5名の代表選手が集まり、総勢四百数十名の選手で競います。また各国2名以上の役員も参加し、問題の翻訳と採点を担当します。日本は2006年の第37回大会から毎年代表選手役員団を派遣しています。コンテストでは、理論および実験試験をそれぞれ5時間かけて行います。また、開催国主催のさまざまなイベントや研究施設・名所旧跡の見学、ノーベル賞受賞者の講演会などが催され、選手どうし役員どうし国際的な交流を深めます。2022年には日本で国際物理オリンピックが開催される予定です。

国際物理オリンピックでの日本代表選手回の成績

第50回 イスラエル大会 (2019年)	金 銀 銀 銀 銀
第49回 ポルトガル大会 (2018年)	金 銀 銀 銀 銀
第48回 インドネシア大会 (2017年)	金 金 銀 銀 銀
第47回 スイス・リヒテンシュタイン大会 (2016年)	金 金 金 銀 銅
第46回 インド大会 (2015年)	金 銀 銀 銅 銅
第45回 カザフスタン大会 (2014年)	銀 銀 銀 銀 銅
第44回 デンマーク大会 (2013年)	銀 銅 銅 銅 銅
第43回 エストニア大会 (2012年)	金 金 銀 銀 銀
第42回 タイ大会 (2011年)	金 金 金 銀 銀
第41回 クロアチア大会 (2010年)	銀 銅 銅 銅 入賞
第40回 メキシコ大会 (2009年)	金 金 銀 銅 銅
第39回 ベトナム大会 (2008年)	金 銀 銅 入賞 入賞
第38回 イラン大会 (2007年)	金 金 銀 銀 銅
第37回 シンガポール大会 (2006年)	銀 銅 銅 銅 入賞

国際物理オリンピックでは、選手のうち成績上位約8%に金メダル、次の約12%に銀メダル、さらに次の約18%に銅メダル、さらに次の約25%に入賞が授与されます。

物理チャレンジから国際物理オリンピックへ



7月 国際物理オリンピック 5名

世界トップレベルの高校生とメダルをかけて競う

4~7月 日本代表選手研修 5名

国際物理オリンピックに向けた実践トレーニング

3月 チャレンジ・ファイナル 約12名

国際物理オリンピック日本代表選手5名を決定する最終選考

9~翌年3月 日本代表候補者研修 約12名

国際物理オリンピック日本代表選手候補者に対する通信添削および合宿研修



10~翌年2月 ステップアップ研修

第2チャレンジ参加者のうち希望者に対する通信添削による研修



10~翌年2月 ファーストステップ研修

第1チャレンジ参加者のうち希望者に対する通信添削による研修



8月 第2チャレンジ 100名

3泊4日の合宿形式での全国大会

6~7月 第1チャレンジ 約1500名

理論試験と実験レポートによる予選コンテスト

4~5月 参加申込

参加資格：20才未満で、大学などの高等教育機関に在学していないこと

前年9~3月 プレチャレンジ

全国各地の高校や教員研修所での説明・研修会

